

首都圏情報コーナー

佐渡連合商工会と 首都圏佐渡連合会との交流会開く

佐渡島内から商工会長9名と事務局2名の11名が、NHKホールで開催される全国商工会長会議に出席するため、佐渡から揃って上京した11月28日、首都圏佐渡連合会の経済人懇談会(会長:今井茂雄・畑野)関係者25名との交流会が、東京水道橋で行なわれました。

交流会では、両津商工会長の齊藤甲子郎さんが佐渡を代表して挨拶され、①佐渡は相変わらず、観光客の減少が続いている。②佐渡空港にジェット機が就航すれば明るい未来がある。首都圏とのビジネスにも期待が広がると話されました。首都圏佐渡連合会の摩尼会長は、①首都圏在住の佐渡人による経済人懇談会を2年前に立ち上げた。おけさ会という首都圏の官庁職員の集まりが既にあり活動している。②郷土会を基盤とした首都圏佐渡連合会と共に、将来的には3本柱で佐渡人の活性化を図りたい。そのためにはふるさと佐渡との交流は欠かせないと挨拶されました。思いのほか早く佐渡商工会と首都圏経済人の交流が実現したことに出席者は喜び、知り合いの消息などを尋ねあっていました。

平成20年3月には、東京表参道ネスパスで佐渡物産展や商談会の開催など具体的な計画も、この場で協力を確認しました。



アイランダー2007

11月24日、25日の2日間、東京池袋のサンシャイン文化会館で「アイランダー2007」が開催されました。



北は北海道から南は沖縄までの全国の島々が一堂に会し、島と都市との交流、島と島との交流、島と海外との交流など、離島地域の活性化を目的に行なわれ、今回で15回目となりました。

初日は全国離島振興協議会会長(高野佐渡市長)の開会挨拶や代表者のテープカットで幕開けとなりました。今回、佐渡島を含め、約190の島々の参加があり、そして会場には都市近郊から2日間で12,000人余りの来場者で賑わいました。

佐渡からは、トッキッキの着ぐるみで国体PRやコシヒカリの精米実演販売とおにぎりの試食、乳製品、海産物などの特産品販売・赤玉石の携帯ストラップ作り体験や定住相談コーナーを設け、またステージでは石花鬼太鼓保存会による勇壮な鬼太鼓と、東京若波会の佐渡民謡を披露し、佐渡の宣伝に努めました。

全国の離島が共に力を合わせ、個性を生かして「島の元気・面白さ・楽しさ」を広くアピールするために今後もこうしたイベントに参加し、佐渡をPRしたいと思います。(新潟県離島振興協議会佐渡事務局)

随想

ゆき夢飛行

No.20

トキ放鳥

佐渡市長 高野宏一郎

明るい話題ですが、今年には念願のトキの試験放鳥の年です。国、県、市、大学、NPOや環境にやさしい米づくりに携わっている農家の方々など、小佐渡東部地区を中心として、ほぼ47ヘクタールの整備が終わりました。

特に、市が2年にわたって整備を進めている野生復帰ステーションの南側の約4ヘクタールの水辺は、放鳥後のトキが万が一の時の避難場所にもなり、バードウォッチングが出来るような場所にもしたいと考えています。近くを通る電線は撤去し、施設に必要な電力は太陽発電で補います。車の直接乗り入れは禁止されて、トキの安心して憩える環境を作ります。また冬の積雪時の対応として井戸を掘り、雪深い冬にも採餌できる空間を作るつもりです。

昨年、コウノトリの野生放鳥を成功させた兵庫県豊岡市の中貝市長に講演をお願いして、その感激の体験談をお聞きしました。豊岡市ではコウノトリと共生するストーリーを市民が皆で支え、ついに昨年は、放鳥後のつがい雛が誕生し、その巣立ちが日本中を沸かせました。見物客も、多いときには日に一万人を超えるそうです。

地震で手痛い打撃にあえぐ佐渡観光がトキの試験放鳥でよみがえることと、佐渡市が今年から売り出すブランド米「朱鷺の郷認証米」の爆発的な売れ行きを夢見ています。